



説教要旨 「あなたのために来られた主」

詩編 24編 1～6節・ルカによる福音書 2章 8～14節

神様の独り子である救い主が、私たちと同じ一人の人間として、母マリアの出産によってこの世に生まれたことを、ルカによる福音書第2章は語っています。それはこの世界のほんの片隅でのことであり、そのままであればイエス様の誕生は、母マリアと夫ヨセフ以外の誰も知らない出来事となったはずでした。しかし神様はこの出来事とその意味を、何人かの人々を選んで告げ知らせたのです。

その選ばれた人々としてルカ福音書に登場するのが羊飼いたちです。彼らは野宿しながら羊の群れの番をしていました。つまり、彼らは自分の仕事に忙しく励んでいたのです。安息日ごとに礼拝に通っていたとも思えません。日々の忙しい仕事の中で、神様のことなど深く考えることも求めることもなく過ごしていたのだと思うのです。そのような者たちがある日突然神様によって選ばれて、語りかけられたこと、それは彼らにとって驚きであり、戸惑いであり、さらに言えば迷惑な話でもあったことでしょう。

「救い主が生まれた」という知らせは、それだけでは、彼らにとって他人事ではしかありません。この知らせが羊飼いたちにとって本当の「大きな喜び」となるためには、その救い主が「あなたがたのために」生まれたという事が欠かせません。世界人類のためとか、特別な苦しみや困難の中にいる誰かのためではなくて、あなたがたのために、神様は救い主を遣わされた。人類全体への救いなどという大それた、あまりにも壮大すぎて自分とは無関係にさえ思える救いではなくて、ほかでもない“あなた”のための救いが告げ知らされたのです。

熱心に神殿に通い、神様を礼拝している者にではなく、自分たちの国、イスラエルがローマ帝国に支配されている現状を憂う人々にでもなく、忙しい日常生活の中で、神様のことなど深く考えることも求めることもなく過ごし、日々の生活に追われ明日の糧を憂う羊飼いたちに、この大きな喜び、インマヌエル（神が我々と共におられる）の喜びがもたらされたのです。